

## 1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広い視野と深い知識、思いやりの心と規範意識をもった心身ともに健康な中学生

『生徒行動目標』 ○自ら学ぶ ○思いやる ○鍛える

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	今年度生徒に発信するメッセージは『ひとりひとりが誰かを支える十二中生！』とした。「自己効力感」の涵養は引き続き実践していく。そのことで、生徒の日々の行動が学びから得られた自信に基づくものとなってほしい。そこに加えて、今年度は生徒行動目標の「思いやり」に意識を置いて、生徒ひとりひとりが無意識に誰かを支える行動があふれる学校としたい。
○児童・生徒像	さりげない思いやりを、日々の何気ない行動として実践できる生徒 <「生徒行動指針」に基づいた具体的な生徒像> ○自分の力を学級や学年・家族や地域のために進んで役立てようとする生徒 ○習得した知識を実生活に活かすような行動を自ら行い、意欲的に経験を積み上げていく生徒 ○病気に負けない、心身ともに健やかな体（体力）を身に付けた生徒
○教師像	○「さりげない思いやり」を生徒に示すことのできる教師 ○教育公務員としての使命と責任を自覚し、生徒・保護者・地域の信託に応える教師 ○組織として迅速に動くことができる教師 ○自らの生き方をもって生徒を導くことのできる教師 ○常に危機意識をもって、生徒の安全を構築できる教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 1 学校の現状

- 1) 「今の学級をより良くしたい」、「学級のみならずはお互いに協力して助け合っていた」の設問に対する肯定的回答が、いずれも9割以上で自己有用感の涵養が図れている。
- 2) 特別な支援を必要とする生徒への対応が組織的に行われている。
- 3) 「授業が楽しい」、「授業がわかる」と思っている生徒が多いにもかかわらず、学力の定着が図れていない。
- 4) 自分自身に自信をもてないでいる。
- 5) 「思いやりのある行動」が日常、さりげなく行えるまでに定着していない。

### 2 前年度の成果

- 1) 「スマイルルーム」と「キャッチアップルーム」を組織的に運用し、個に応じた指導を推進できた。
- 2) 「サタデースクール」を初めて夏季休業中にも設定し、長期休業中の学びの継続を図れた。

### 3 前年度の課題

- 1) 区学力調査と到達度確認テストの結果、基礎学力の定着が図れていなかった。
- 2) 個別の学習支援に必要な人材の確保が十分進まなかった。

#### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	○	○	○
2	『キャリア教育』の視点に立った教育活動の推進	◎	◎	◎	◎	◎
3	不登校・不適応対応	◎	◎	◎	◎	◎
4	生活指導の充実	◎	◎	◎	◎	◎

#### 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の確かな定着と		令和6年度の目標正答率 3科平均57%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	基礎学力の確かな定着	全学年 国語 数学 英語	通年	<b>【取組内容】</b> ・4月の区学力調査で正答率の低い単元を授業内でのしっかり学び直す。その際積極的にAIドリルを活用する。 ・放課後補習（JUT）の年間指導計画を立て、意図的計画的に補習を行う。 <b>【ねらい】</b> ・入試に耐えうる基礎基本の定着	・4月に実施する区学力調査結果 ・2月に実施する到達度確認テストの結果	・4月の正答率 国語 72.0% 数学 45.0% 英語 55.0%  ・2月に実施する到達度確認テストで全教科5ポイントup	自己評価の際に記入		

2 継続	授業改善	全教科	通年	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業展開を全教科等で統一し、導入5分、展開35分、まとめ10分とし、単元を貫く学習目標を立て、そこから各授業の学習目標を定め、足立スタンダードの基づく授業を実践する。管理職による授業観察を一人1回以上実施する。</li> </ul> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1時間1時間の授業で生徒が身に付けるべきことを明確にすることで、学習内容の確実な定着を図る</li> </ul>	<p>区学力調査の「意識調査」とWebQUの「学校生活意欲尺度」の設問No.7</p> <p>研究授業の実施回数</p>	<p>『授業が楽しい』の設問に対する肯定的回答が90%以上</p> <p>『授業がわかる』の設問に対する肯定的回答が80%以上</p> <p>全教員が一人1回以上足立スタンダードに沿った研究授業を実施する。</p>			
3 継続	学習コンテスト	国語 数学 英語	各教科 年1回	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国数英3教科で基本的な知識を問う問題に取り組ませる。</li> <li>各コンテスト前に取り組む週間を設け、AIドリルを積極的に活用する。</li> </ul> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習意欲の喚起</li> </ul>	3教科の学習コンテスト	<p>各教科の合格率</p> <p>国語 95%</p> <p>数学 80%</p> <p>英語 85%</p>			

4 継続	サタデー スクール	全教科	通年	<b>【取組内容】</b> ・土曜授業のない土曜日に開かれた学校作り協議会主催で自学自習の学習の場を設定する。 <b>【ねらい】</b> ・家庭では気持ちが学習に向かない生徒の学習意欲を喚起するとともに、学習習慣を身に付けさせる。	サタデースクール登録者数と出席状況	登録生徒数 35名以上  年間延べ参加人数500人以上			
---------	--------------	-----	----	--	-------------------	--------------------------------------	--	--	--

<b>重点的な取組事項－2</b>	キャリア教育の推進
-------------------	-----------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己効力感の涵養を図り、自信をもって生活できる生徒の育成	区学力調査の意識調査と WebQU の設問No.8、No.16、No.21～23 で肯定的な回答を示した割合	<b>自己評価の際に記入</b>		

<b>B 目標実現に向けた取組み</b>
----------------------

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己効力感の涵養	WebQU の学級満足度尺度と学校生活意欲尺度の設問No.8、16、21、22、23 の肯定的な回答がいずれも70%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科も含めた全教育活動の年間指導計画を「キャリア教育」の視点から再編する。</li> <li>年間指導計画は各学年の廊下に掲示し、生徒に対して可視化する。</li> <li>十二中の生徒が身に付けるべきキャリア目標を各教室に掲示し、生徒に意識化を図る。</li> </ul>	<b>自己評価の際に記入</b>		

自己有用感の涵養	区学力調査の意識調査の『今の学級をより良い学級にしたいと思う』と『学級のみんなはお互いに協力し助け合っていた』の設問に対する肯定的回答がいずれも94%以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の学びを受け継ぎ、中学生としての発達段階に応じた係活動に意図的に取り組ませ、集団における自己の役割を自覚させる。</li> <li>・学級活動を中心に生徒相互の良さを認める活動を充実させる。</li> <li>・SWPBSを導入し、生徒を適切に褒め、有用感を高める。</li> </ul>			
ないりたい自分を見つける	区学力調査の意識調査の『将来の夢がある』の設問に対する肯定的回答が70%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教育活動において、キャリア発達を促す教育の実践</li> </ul>			

<b>重点的な取組事項－3</b>	不登校・不適応対応
-------------------	-----------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校出現率の減少	不登校出現率3%以下	<b>自己評価の際に記入</b>		

<b>B 目標実現に向けた取組み</b>
----------------------

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校・不適応生徒を受け入れる学級の雰囲気づくり	WebQUにおける学級満足度50%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動、道徳科の指導を通して学級の中に生徒の居場所を確保するとともに、各学級、学年で生徒の活躍の場を設定し、相互に認め合える雰囲気を醸成する。</li> </ul>	<b>自己評価の際に記入</b>		

<p>学習に困難さを抱える生徒の支援</p>	<p>WebQUにおける『学習意欲』に関する設問の肯定的回答が63%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャッチアップルーム」での個別支援を通して、学習に課題のある生徒の学習意欲を喚起する。</li> <li>・学級活動を通して、生徒が互いに学び合う関係を構築し、どの生徒も意欲的に学習に取り組めるようにする。</li> </ul>			
<p>組織的な対応</p>	<p>特別支援教育推進委員会 年30回開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育推進委員会を毎週木曜日に設定し、不登校、不適応生徒の情報を共有し、支援を必要とする生徒を全校で組織的に支援する。</li> <li>・特別支援教育推進委員会には民生児童委員にも加わっていただき養育困難家庭の支援も行う。</li> </ul>			

<p><b>重点的な取組事項－4</b></p>		<p>生活指導の充実</p>			
<p><b>A 今年度の成果目標</b></p>	<p>達成基準</p>	<p>実施結果</p>	<p>コメント・課題</p>	<p>達成度</p>	
<p>生徒の内面からの変容を促し、自ら学校生活を豊かにしようとする姿勢を育む</p>	<p>WebQU、ふれあい月間のアンケートにおけるいじめ発生件数</p>	<p><b>自己評価の際に記入</b></p>			
<p><b>B 目標実現に向けた取組み</b></p>					
<p>項目</p>	<p>達成基準</p>	<p>具体的な方策</p>	<p>実施結果</p>	<p>コメント・課題</p>	<p>達成度</p>

いじめの早期発見・対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>WebQU における侵害行為認知群、各学年とも 15%以下</li> <li>学級不満足群 20%以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WebQU を活用して、いじめの早期発見に努め、発生したいじめについては「いじめ防止基本方針」に基づく校内「いじめ防止対策委員会」を中心に組織的にその解決にあたる。</li> <li>生徒会活動や学級活動を通して、生徒自らの手でいじめを抑止しようとする態度を育てる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;">自己評価の際に記入</div>
体罰の根絶	体罰発生件数 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して教職員への服務に関する研修を繰り返し、特に、生徒に対して適切な言葉と態度で接するようにさせ、生徒の内面に届く指導を行う。その際、SWPBS を積極的に取り入れ、活用する。</li> <li>SWPBS の研修を行い、教職員が生徒を適切な言葉で褒められるようにする。</li> <li>WebQU の研修を実施し、WebQU を正しく分析し、効果的に指導に活かす力を全教員に身に付けさせる。</li> </ul>	

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。  
 経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）